

推薦

雨宮育作
浜田庄司
金丸三郎

(敬称省略)

薩摩烏賊餌木考

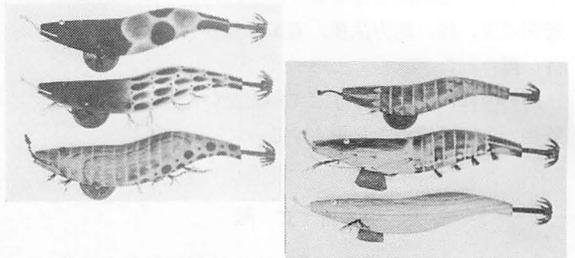
理学博士 岡田喜一 著

本書は鹿児島県下で300余年間の伝統を保っている独特の烏賊いかの擬餌釣の研究を著者の蒐集した2000点余の資料と古老の口述を基に水産動植物や民芸、民俗等、多方面に造詣の極めて深い著者に依て、初めて総合的に集大成された空前の貴重な大著であり、興味深い記録である!!

■書架に備えられ文献研究の参考に、また趣味と観賞に愉しまれますことをお薦めします■

本書の体裁

- A 4判 (210mm×297mm) / 総頁230
- 本文総アート紙 / 使用活字 5号 / 横組
- 挿入写真絵図46枚 / 一頁大挿絵図11枚
- 原色口絵一頁大6枚 / 墨刷一頁大61枚
- 角背 / 紬織紺染布表装 / 背文字金箔押
- 堅牢極上製 / ケース入 / 愛蔵本



定価16,000円 [日本藻類学会会員のご購入申込に限り特価12,800円(送料共)頒売]

日本海藻誌

岡村金太郎著 ¥20,000

藻類学総説

廣瀬弘幸著 ¥7,000

発芽生理学

中山 包著 ¥2,500

花色の生理・生化学

安田 斉著 ¥2,800

世界の珍草奇木

川崎 勉著 ¥1,300

生物学史展望

井上清恒著 ¥4,800

新風生物学

楠 正貫著 ¥1,800

大気と水の公害概論

大山 正著 ¥1,500

日本産淡水藻の総べてを網羅した好評の図鑑

日本淡水藻図鑑

秋山 優・今堀宏三・庵谷 晃 B 5判・950頁
 加崎英男・熊野 茂・小林 弘 カラー口絵8枚
 高橋永治・津村孝平・平野 實 背革堅牢・極上製
 廣瀬弘幸・山岸高旺 共著 ¥36,000

本書の内容と特徴

- 日本産の淡水藻で確実に同定されているもの約3,800種(このうち珪藻約1,500種は続刊)を収める。
- それらの中には浮遊性の微細藻すなわち植物プランクトン約2,000種を含む、プランクトン図鑑ともいえる内容。
- 各種藻類群ごと目、科、属、種の分類学的特徴、形質を左頁それらの記載を右頁に一見して対照ができる。さらに検索表を付す。産地、分布、生殖法、利用法、藻類学者の小伝など記載事項豊富。
- 文献は明治初期以来の分類学的研究を中心に網羅した「日本淡水藻研究略史」と藻類に初めて携わる方々のために「採集と研究法」が記載されている。
- 巻末の学名、和名、術語の詳細な索引は事典の如し。
- 利用者に最も重宝で好評である。

書肆

内田老鶴圃新社

東京都千代田区九段北1-2-1
☎(265)3636・振替東京3-6371

◎書籍頒布について 会員および、その他ご希望の方に頒布致しますので代金を添えて学会事務局までお申し込み下さい。

- (1) 山田幸男先生追悼号 本学会では昨年8月に故山田幸男先生の追悼号を刊行致しました。この事業は、追悼号刊行実行委員会の手で進められ、その経費はすべて各界各位の寄附金によって充当されました。A5版 i~xxviii, 1~418 頁, 山田先生の遺影・経歴・業績一覧・追悼文および内外の藻類学者より寄稿された論文50編(英文26, 和文24)が掲載されています。価格, 国内5500円, 国外6000円(含送料)。
- (2) 北海道周辺のコンプ類と最近の増・養殖学的研究 昭和49年9月3日札幌で行われた日本植物学会の折, 日本藻類学会主催で「コンプに関する講演会」が開かれましたが, そのときの記録が刊行されたものです。B5版, 65頁, 発表論文4件の研究報告と討論の要旨が掲載されています。価格, 700円(含送料)
- (3) Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific (I.A. Abbott & M. Kurogi ed.) 昭和46年8月に札幌で開かれた北大平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録です。B5版, i~xiv, 1~280頁, 16図版, 20編の研究報告を掲載。価格, 国内3000円, 国外4000円(含送料)。

昭和53年度役員

会長 西澤一俊
総務幹事 山岸高旺
庶務幹事 古谷庫造
会計幹事 岡崎恵視

編集委員会

委員長 小林 弘
委員 秋山 優・新崎盛敏・今堀宏三・
黒木宗尚・館脇正和・千原光雄・
広瀬弘幸
幹事 市村輝宜・大島海一

Officers for 1978

President: Kazutosi NISIZAWA
Secretary general: Takaaki YAMAGISHI
Secretary: Kurazo FURUYA
Treasurer: Megumi OKAZAKI

Editorial Board

Hiromu KOBAYASI (Tokyo) Editor in Chief
Masaru AKIYAMA (Shimane) Seibin ARASAKI (Tokyo)
Mitsuo CHIHARA (Tsukuba) Hiroyuki HIROSE (Kobe)
Kozō IMAHORI (Osaka) Munenao KUROGI (Sapporo)
Masakazu TATEWAKI (Murooran)
Secretaries: Terunobu ICHIMURA, Kaiichi OOSHIMA

学会に関する通信は、(〒184) 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学生物学教室内 日本藻類学会幹事宛とし、幹事の個人名は使用しないで下さい。

Manuscripts and other correspondences should be addressed to the Japanese Society of Phycology, c/o Department of Botany, Tokyo Gakugei University, Koganei, Tokyo, 184 Japan

昭和53年9月20日 印刷
昭和53年9月25日 発行

編集兼発行者

小林 弘

〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学生物学教室内

印刷所

学術図書印刷株式会社
東京都練馬区豊玉北2-13

発行所

日本藻類学会

〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学生物学教室内
東京 振替 6-41999

禁 転 載
不 許 複 製

藻 類

目 次

藪 熙: カナダ・ノバスコシア産アマノリ属植物 4 種の染色体数……………(英文)	97
熊野 茂: 日本淡水産紅藻アクロケチウム属の 1 新種……………(英文)	105
水沢政雄・影山明美・横浜康継: タイドプール性海藻の生理 I. 夏季の光合成—温度特性…(英文)	109
李 竜弼・黒木宗尚: <i>Rhodochorton subimmersum</i> SETCHELL et GARDNER の有性生殖器官と受精後の発達……………(英文)	115
吉田忠生: <i>Sargassum kjellmanianum</i> と <i>S. miyabei</i> (褐藻・ホンダワラ科) の選定基準標本 …	121
安藤一男: 日本産コケ付着ケイソウ (2)……………	125
楠元 守: <i>Pleodorina californica</i> SHAW (Volvocaceae) について……………	131
三浦和歌子・藤尾芳久・須藤俊造: ノリ葉体のアイソザイムについて……………	139
ニュース……………	119, 124
新刊紹介……………	120

評議員会並に編集委員会の議をへて、26巻1号から雑誌の体裁とその英文名を“The Japanese Journal of Phycology”に変更しました。しかし、巻次は継続します。
